
バレット学園日記！！

ミロンド2

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バレット学園日記！！

【Nコード】

N0420Z

【作者名】

ミロンド2

【あらすじ】

ミロンドの引き続きのミロンド2！！
色違いピカチュウと超人的なツタージャ達がおこす、四正学園での生活。

この学校ではスキルを育てるといったが…？

第4話 混合色（ミックスカラー）（前書き）

若干オリジナリティーが入ってますよ。

ラック「若干か？」

うん。…ところでバレットは？

ラック「あいつは…それよりこの作品1〜3話目がみたい人はバレット学園日記をどうぞ！」

あいつより宣伝かい！

ラック「ああ、そうさ。」

第4話 混合色(ミックスカラー)

俺は今ラックと散歩中だ。…というよりも連行に等しい。だって荷物持ちだもん。

ラック「あー買った買った」

バレット「それよりも早く帰ろうぜ。門限過ぎるぞ。」

俺達を通っている…というか住んでる学校は外出は自由だが6:30には帰らなくてはいけないのだ。

ラック「んーそうだね。そろそろ戻ろう…

あれ？」

バレット「ん？どうした？」

ラックの目線の向こうには不良とその不良に囲まれている…ヒコザル？

不良「おうおう、兄ちゃん少しでいいんだ

金くれ金！」

ヒコザル「も、持ってません…」

不良「じゃあ金持ってこいやー！」

バレット「どうする？ラックーラック」てめーらあ！弱い者いじめすんなやあ！」

あー…バカ…

不良1「おう？誰だ？お前？」

ラック「ツタージャ。」

不良2「見りゃわかるわ！んなこと！」

不良3「名前はなんだあ？」

ラック「ラックだよ。ちなみにあそこのピカチュウが僕の友達バレット。」

バカあああああつっつ！！

不良4「おうおう兄ちゃんもこっちこいや」

ああ…他人の振り作戦失敗…

バレット(おい!どうすんだよ!こいつら)

ラック(ん?ぶちのめす。)

バレット(できんのかあ?)

ラック(まあまあここは僕にまかせて!)

不良1「こそこそ何しとんじやあ!」

不良1、2、3、4は一気に襲いかかって来た。…全員炎タイプじやん!!

バレット「ラック!危ない!!」

土煙がたつた。土煙が晴れると…

バレット「……………!?!」

そこには無傷のラックと倒れた4人の不良

バレット「ラック!大丈夫!?!」

ラック「ん?ああ、大丈夫だよ。」

しかし…炎の攻撃は直撃だったはず……………

…!もしや!!

ラック「うん、スキル使ってみた。」

バレット「具体的にどんなの?」

ラック「タイプを換えるスキル。…んーどんな名前にしようかな」

…」

なるほど。草タイプを水タイプにでもすれば効果は今ひとつだ。…

それよりも

バレット「大丈夫?」

ヒコザル「うん、大丈夫。ありがとう、えーと…」

バレット「バレットだよ。」

ループ「ありがとう、バレット。あ、僕は

ループ。ところで…」

バレット「ところで?」

ループ「もしかして四正学園の人?」

あ、四正学園って俺達がすん(ry

バレット「うん、どうし<ruby><rb>ラック「混合色

</rb><rp>(</rp><rt>ミックスカラー</rt
><rp>)</rp></ruby>で決まり!」

バレット「ああ、うん…えーとそれで?」

ループ「門限まであと10分(^o^)」

最後まで聞かず、無我夢中で走った。

学園に着いたのは門限5分後。めっちゃ怒られた…んだけど、ラッ

クはなぜか門限前に

帰ってたらしい。…おかしいだろっ!!

第4話 混合色（ミックスカラー）（後書き）

ラック「作者…いないなあ〜じゃおわりだね。」

ちよ？「いますけど待って！あ！あ—————プツッ

第5話 「不幸に叩き落とす悪魔と幸運に導く天使」(テスト)の恐怖(前書き)

ラック「題名凝ってるね。」

いやーそんな感じじゃん？

ラック「んー僕は天使の方かな？」

んまーそこは本文で！！

リース「俺も久しぶりだぜ！！」

ラック「俺と作者(仮)の所を！」

…仮？

第5話 「不幸に叩き落とす悪魔と幸運に導く天使」(テスト)の恐怖

ここは四正学園。ここの1-2では…

リース「あゝ3日後テストだ。点数悪い奴は補習だからな。」

バレット「ちよつと待て!!」

リース「なんだ?変色鼠。」

バレット「鼠言うな!それより3日後つて

なんでそんなギリギリに!!」

リース「あ?連絡ミスだ。じゃあな」

リースは教室を出て行く。…すると

ハクア「ねえ。一緒にテスト勉強しない?僕、成績悪いし…」

バレット「え?あ、ああいいぜ。」

実は言う俺は成績悪いんだか…

ハクア「よかった。ラックも呼んだから!さんポケ寄れば文殊の知

恵っていうし!」

……え?ラック?

バレット「ラック…呼んだの?」

ハクア「…?うん、そうだけど?」

やばい。生きて還れそうにない!

ラックは成績は良い方…というか完璧だ。

だから一度ラックと一緒に勉強したことあるんだが…

バレット「ごめん!やつは無理ーラック

「もう一度言ってごらん?」

バレット「だから行けな…うおっ!」

ラック「行けないなら逝かせてやる。今死ぬかここで死ぬか…どっ

ちがいい?」

強制連行¥(^o^)/

ラック「だから何故x=4、y=3なのに56になんだよ!」
ハクア「だってやり方!」

ラック「-2xなら-4x4!4x4すんな!」

俺達はラックの「暗闇に逃げ場なし」(きょうせいべんきょう)を
させられてる。

え?かつこ悪い?やつぱり?

ラック「ごたごた言ってるねえーではよおやらんかい!」

バレット「Yes I do!」

俺は英語に取り掛かる。…………えーと

“Did you studied English?”を訳せ?
えーと…didだから疑問系で過去系だろ…

Englishは英語…だから

“あなたは英語を勉強しましたか?”だな!

よし!楽勝!次いくぞー!

“I just finished reading this
book.”

はあああああつつつつ???

ラック「そんなのも訳せないのか?」

バレット「いや!無理です!」

ラック「はあ…“just”は“たった今”で

“finished”は“終わった”。だから

“私はたった今この本を読み終えました”

おお…。でも…

バレット「これ…習ってないよな。」

ハクア「うん。そうだよな。」

ラック「おしゃべりはそこまでだ。さあはじめるぞ…」「これは地獄

絵図」(イツツ ヘル タイム)!!」

ギヤアアア…………

結果はこうなった。

国語… 56点

数学… 48点

英語… 62点

社会… 65点

理科… 87点

ポケ学… 65点

順位… 98人中82位

ラックは相変わらずオールパーフェクト。

ハクアは大体70点位だったらしい。

そしてリースの最後の一言。

リース「80点以下補習な。今基準決めたけど。」

オワタ¥(＾o＾)ノ

第5話 「不幸に叩き落とす悪魔と幸運に導く天使」(テスト)の恐怖(後書き)

ラック「僕の“隠蔽計画”(パーフェクトミラージュプラン)に狂いは無い!.....

よしっ! 終わり!..!」

第6話 “楽しむも休むもあなた次第” (がくえんさい)の準備をしよう(前書

ラック「何かの説明みたいだな。」

作者「うーん、たしかに…」

ラック「あ！ちなみに四正学園の学園祭は

”敬遊祭”だよ。」

作者「最近、君ここ奪ってない？」

ラック「気のせいだよ。」

作者「いやーでも。」

ラック「気のせいだ。」

作者「でもね。」

ラック「気？の？せ？い。」

作者「うーん。」

ラック「気のせいだっつってんだろ。」

作者「はい…。」

第6話 “楽しむも休むもあなた次第”（がくえんさい）の準備をしよう

これは、7月上旬のお話

リース「今度の日曜日に敬遊祭を行う。ちなみにどこのクラスも出店をやる。出店でなんかやりたいやついるか？」

学園祭かあ〜そんなにテンションあがら...

ラック & amp; バレット 除く全員「イヤアツツホウウウツツ！
」！

ああ...みんなハイテンション...

ラックはハイテンションじゃないけど...

リース「嬉しいのはわかったから！なんか案はないか!？」

焼きそば！たこ焼き！かき氷！フランクフルト!...とみんな口々にいう。

リース「あー焼きそば3人、たこ焼き5人

フランクフルト6人、かき氷7人.....」

リースは律儀に数えていく。

リース「よし、俺の気分で焼きそばだ」

あんたの気分かよっ！みんなつつこむ。

..... あーいやだ。このテンション

リース「おう？バレットとラック...ラック寝てんのか...みんなのテンションについていけないのかあ〜？」

俺は何も言わない。

リース「何も言わないって事は凶星かあ」

みんなが俺を笑う。

ラック「...因数分解...むにゃむにゃ...」

こいつはどんな夢をみてんのか...

ラック「テメーらうぜえんだよ。学園祭の時に限ってテンション上がりやがって。うるさいというよりうざい...むにゃむにゃ」

今こいつ自分の意見言わなかった？

ラック「というか焼きそば焼きそば簡単に言うけどあれソースの加減とか色々めんどいんだぞ？その分かき氷は冷やしてくれるからいいけど…むにやむにや。」

リース「じゃあかき氷でいいな。」

こいつ自分がやりたいものにかえやがった

ラック「これが僕の技さ。」

ふう〜…やっぱりな…

リース「じゃあお前ら二人パトロール係な

はい、決定。」

バレット「はあ！？おい、勝手にきめんなよ！！…今回初めてのセリフー！！」

リース「話聞いてないお前が悪い。…意味不明な事言ってるじゃねえよ！！」

ラック「寝るんで静かにしてね。」

バレット/リース「……………はい。」

〜次の日〜

ナムル「ほら！早く何味がきめるぞ！」

ループ「レモン味とかいいなあ〜。」

ラック「ラック（運）次第の味。」

ナムル「怖っ！でも面白そう！採用！」

ラック「zzz…」

ナムル「…って寝言〜っ!？」

ループ「苺ミルク…」

ラック「飽和砂糖水をかけたり、メロンシロップかけたり、硝酸化ナトリウムかけたりしようよ。」

ナムル「硝酸化ナトリウムは却下あ！」

…俺？バレットだよ。……………つまんね。

T
o
b
e
c
o
n
t
i
n
e
d
...

第6話 “楽しむも休むもあなた次第”（がくえんさい）の準備をしよう（後書

ラック「行事とかでテンション上がる奴に

殺意がわいた事があるよ。」

作者「わかる、わかる。合唱コンクールとかでリーダーじゃないのに仕切る奴ね。…っていない。」

第7話 “考える章” (にんげん)の世界へ！？ (前書き)

ラック「にゅ。なるほど。“人間は考える章”から考えたんだね。」

作者「うん。色々候補はあったんだけど」

ラック「いいんじゃない？でははじまり、はじまり〜」

第7話 “考える章” (にんげん)の世界へ!?

ここは四正学園。…の1・2は今は理科をしてるのだが…
デンリユウ「でだな、俺は作った訳よ。」

理科の担当ウイル先生は無駄話を続ける。

ウイル「“異空間移動装置” (パラレルワープ) を。いや〜きつかったぜ。」

バレット「先生、どんなやつなんすか？

その〜“異空間移動装置”ってのは。」

ウイル「具体的には、こことは違う世界に行けるのさ。…んで誰か実験体3人いねーか？」

俺は考える。本当にそんな事が出来るのか

…でも本当だとすれば…

ラックノバレットノハクア「はい! (は〜い)

俺(僕)がいききたいですっ!!!」

ウイル「よーし、じゃあ明日行くからな。

準備しとけよ。」

ハクア「ところでどの世界にいくんですか？」

ウイル「秘密」

あー楽しみだな〜…

ウイル「ちなみにリリースも行くぞ。」

…やめよっかな

次の日…

バレット「行ってくるぞ!」

生徒1「死ぬなよWWW?」

バレット「不吉なこというなー!」

ラック「ねえ、早く行こうぜ」
ウイル「んじやいくぞ！スイッチON！」
キウイ「……ン……ボン！！」
バレット「なんか変な音した！」
チュン！！

ラック「おーい。起きろ。」
バレット「……ん、ここは？」
ラック「どうやら人間界のようだよ。あとハクアとリースと別れちゃった。」
バレット「はあ！？人間界！？」
ラック「うん。さつき俺らと同じポケモンと人間が一緒にいたもん。」

……

バレット「お前……誰だ？」
ラック「え？どうしたの？」
バレット「てめー誰だ！！」カミナリ！！
雷が落ちる。

ラック「おやおや……ばれてしまいましたか……。どうしてわかったんです？」

バレット「一人称だ。ラックは一度も自分を“俺”と言った事はない。本人曰わく“偉そう”だからってよ。」

モン「チエツ、あと少しかったのに。俺はメタモンのモン。おーいラック、ばれちゃった。」

ラック「えー。早いよ。」
バレット「ラック！！どうゆうことだ！」

ラック「……この世界では気を抜くな。そうゆうことだよ。それよりハクアを探しに……」

あつ！ハクアとリース探しにいくぞ。」

こいつ完璧忘れてたな。

>ハクア視点<

はあゝ…よりによってなんで先生となんだか…。ラックとバレットとは別れちゃったし。先生は様子見てくるって行っちまったし。

ハクア「本当に不幸だな…先生は信用したらろくなことはおきないよ…」

リース「誰を信用したらろくなことがおきないって？」

ハクア「うおう！！」

ま、またこの人は！

ハクア「それより、どうでした？」

リース「…人間界だな。人間が沢山といる。…気持ち悪いくらいな。」

人間…本で読んだ事はあるけど、まさか人間がいる世界に来てしま
うとは…

ハクアはため息をつく。

バレットと違う所で一緒に

ハクアノバレット「はあゝ…」

To be continued

第7話 “考える章” (にんげん)の世界へ!?(後書き)

ラック「人間界編はまだまだ続くぜ!」

第8話 “考える章”と“未知な生き物”（ポケモン）の絆（前書き）

ラック「人間界編はいつまでやる気だ？」

作者「んーあと3話くらいかな」

モン「騙されたな!!」

作者「あ、畜生!…とでもいうと思ったか!!」

ラック「どうだ!“絶対権限”（さくしゃ）にかわってみたぞ!!」

モン「な!騙しを騙しで返すとは!!」

作者「…楽しそうだね。」

第8話 “考える輩”と“未知な生き物”（ポケモン）の絆

バレット「んで…これからどうすんだ？」

ラック「“異空間移動装置”も壊れちゃったし…」

モン「それなら空間を司るパルキアに頼んだらどうです？ けっこうフレンドリーな方ですよ。」

ラック「なるほど。…でそいつがいる場所は？」

モン「転換山…あゝテンガン山です。」

バレット「それより、ハクア達探してからな。」

ラック「……………！！リースの声！！」

ラックはすごい速さで走り出した。

バレット「お、おい！ までよ！！」

>ハクア視点<

ハクア「どうします？ このあと。」

リース「まずラック達と合流だな。」ズトド

ハクア「…？ ってうわあ！」

リース「ラックとバレットか…。 ってラックが2人！？」

モン「あ、メタモンのモンです。」

ハクア「あゝよかった。 どうしてわかったの？」

ラック「声」

皆さんは簡単に言わないでね

すると、そこへ…

人「うお？ うわポケモンだらけじゃん！」

ラック「う、人間！」

リース「ここはおれに…」

人「いけ！ トロピウス！！」

リース「じゃなくてみんなでいこう。」

ラック「でもさトロピウスって草？ 飛行でしょ？ なら…バレット！ 君に決めた！」

バレット「ざけんなあ！」

雷からのボルテッカー！！

バレット「くらえ！“電気爆発”（ボルトフレア）！！」

火花が散ってバレットは炎に包まれる。

トロピウス「！！」

トロピウスに直撃！！

ラック「草に炎で飛行に電気って6倍じゃん。すげーすげー。」

ハクア「すごい…。」

人「な、なんなんだ！今の技は！！」

ラック「お、いいぐあいに煙たってんじゃん。逃げるよ。…っとそのまえに。」

リーフストームからのリーフブレード！

ラック「“木の葉の凶器”（リーフカッター）」

人「ぐあっ！！」

ラック「今だ！逃げるぞ！！」

ハクア「はあ…はあ…ど、どこまでにげたんだろっ。」

モン「…！おう運がよかったな。ここはテンガン山だ。」

リース「何が運いいんだ？」

バレット「ここに空間を司る…えっと…」

ラック「パルキアにあって元の世界に戻ろう。ってことだよ。」

ハクア「なるほど！！」

モン「でもよ…。今このテンガン山には強敵がたんまりといるから、俺はここでぬけるよ。頑張れよ。」

ラック「強敵か、楽しみだな。」

バレット「そっだな…」

ハクア「うー…」

リース「じゃあいくぞ、お前ら。」

T
o
b
e
c
o
n
t
i
n
u
e
d

第8話 “考える章”と“未知な生き物”（ポケモン）の絆（後書き）

ラック「今回セリフばかりだね」

作者「まあね。」

モン「俺はもう出番なしか？」

第9話 “諸刃の剣” (ネバーエンドソード) (前書き)

ラック「タジャタジャタージャ」

作者「!?!」

ラック「タジャ? タジャタージャ?」

作者「え、えーと…」

ラック「笑える。」

作者「普通に話せよ!?!」

第9話 “諸刃の剣” (ネバーエンドソード)

ラック「モンによるとやりの柱って所に
いるらしいぜ。」

バレット「まあとりあえず上に上にいこうぜ。」

俺達は歩きはじめる。すると…

?「ゲギアアア!!」

ハクア「何の音!？」

リース「…どうやら強敵らしいな。」

リースの目線の先にはバクフーンがいた。

バクフーン「なんで!俺は強いのに!!」

殺してやる!!あんなトレーナー!!…?」

誰だ、お前ら。今機嫌が悪いんだ。失せる!!」火炎放射!!

リースは一歩手前に出る

リース「炎タイプなら俺が…」

ハクア「いや!僕がやる!!」

ハクアの火炎放射!

火炎放射と火炎放射は激突し、相殺した。

ハクア「僕も守られてばっかしじゃ駄目だ!!いくぞ!」

守るからの火炎放射からの体当たり!!

ハクア「炎のツララ”(フレイムダイヤモンド)!!」

しかし効果は今一つだ。

バクフーン「…なんだ?その攻撃?なまっちよろい攻撃で俺を倒せ
ると思うな!」

スキル発動!!

ラック「なっ!?!こつちの世界でもあんのかよ!?!」

フレアドライブ!!ハクアに直撃!!

バレット「ハクア!?!」

ハクアはかすった程度だった。…しかし

ハクア「うつ!?」

リース「麻痺状態!?なぜだ!?」

ラック「スキルだろう。」

バクフーン「正解だ。俺の“7つの悪魔”

(アルティッコサタン)は麻痺、毒、火傷、

凍り、混乱、眠り、たまに瀕死、攻撃に当たると必ず状態異常になる。……そのせいで俺は親に捨てられたがな。トレーナーにも!!」

炎のパンチ!

ハクア「ぐっ!!」

ハクアは毒状態になった。

バレット「やべえ!ハクア!てつだ……」

ラックの殴り飛ばす

バレット「ぎゃぐはあ!ラ、ラック!何しやがる!!」

ラック「大丈夫。新しいスキルが目覚めるよ。…ハクアのね。」

ハクア「んがあああああああああああああつつつつ
!!!!!!」

ハクアは咆哮をあげる。

その瞬間、ハクアは凄まじい熱気を発した

バクフーン「何!?!」

ハクア「がああっ!!」

ハクアの火炎放射!効果は抜群だ!!

バレット「なんで!?!」

ラック「多分:スキルの効果でしょ。自分の技を効果今一つでも効果抜群にするスキル。その代わり精神が危ない。“諸刃の剣”

(ネバーエンドソード)と名付けよう。」

またこいつは…

ハクア「グガアアツッ!!」

ハクアの“炎のツララ”!効果は抜群だ!!

バクフーン「ぐああっ……!!」

バクフーンは倒れた。

バレット「よっしゃ!!」

ラック「おい！ハクア。大丈夫か？」

ハクア「……………うっ…」

ハクアが倒れる。しかしそれを見透かしたようにリースはハクアを支える。

リース「お前もスキルゲットしたか…。」

ハクア「はい…。」

リース「んじゃ戻ったらスキル報告書類を書いてもらうからな。」

ラック「あーあれ面倒くさっかた。」

ハクア「えっ…」

バレット「いいから次の階いくぞ。」

俺達は階段を登る。

テンガン山二階は…水のステージだった。

T o b e c o n t i n u e d

第10話 “自尊心” (プライド) (前書き)

ラック「訂正：ハクアが最初ハクルになってたけど……」
作者「間違えた。ただ直すつもりはない」

第10話 “自尊心” (プライド)

バレット「水のステージか…。」

？「おや？誰です。私の住処に侵入するのは？」

声が出た方を見るとミロカロスがいた。

リース「お前の住処を荒らしにきたんじゃないやなくて俺たちはやりの柱にいきたいんだよ

そこを通してくれ。」

ミロカロス「いや、と言ったら？」

リース「無理やり通る。」

ミロカロス「ふふっ気にいりました。最近弱い者ばかりですからねえ。あなたも弱い者じゃないのを願いますよ!!」

ミロカロスのハイドロポンプ！

しかし攻撃は外れた。

バレット「おい。水タイプなら俺に…」

リース「いや確かに相性はいいが、ステージが悪い。水中戦なんてやったこと…」

ラック「あるよ。」

リース「お前はだまれ。とりあえずここは俺がやる！」

リースのハイドロポンプ！！

効果は今一つだ！

ラック「僕も草だけど…」

ミロカロスの冷凍ビーム！

リースにあたった！

リース「うおっ!!」

ラック「やつぱりかあ。」

バレット「いや、お前スキルあんだろ。」

ラック「……………いや。多分…僕のスキルそんなじゃないと思うね。」

「
リースのハイドロポンプ！！
天井にあたった！
ミロカロス「？何をやってるので…！！」
リースの岩石落とし！
リース「ふん、こちらは何万と生徒を見て
戦ったんだ。いまさら…！？」
ミロカロス「やっとききましたね…。」
リース「スキルか！？」
ミロカロス「ええ、そうですとも。私の
“死幻覚”（デッドオブアイ）は私の攻撃に
あたったものは視界が狂う…！！」
ラック「こいつは、やっかいだな。」
リース「……………！！」
リースの目からはまだ戦意はあるようだ！
リース「お前、なめんなよ…教師としての
“自尊心”があるかぎり生徒の前で無様な姿晒せるか…！！」
リース「くらえや！“氷河落とし”（フリーズブレイク）…！！」
ミロカロス「そ、そんな…！！ば、バカなああああ……………」
リースWIN！！
ラック「んじゃ行きますよ。」
リース「俺になんか言わねーのかよっ！」
ラックノバレット「はいはい、凄かったですねー（棒読み）」
リース「お、お前らっ…！！」

To be continued

第10話 “自尊心” (プライド) (後書き)

ラック「くむくむ。帰りたい。」

第11話 “喜劇”と“詭劇”、“興劇”と“凶劇”（前書き）

ラック「うわーい。僕の秘密？」
作者「うん、そろそろかなって。」
ラック「……………はじめようぜ。」

第11話 “喜劇”と“詭劇”、“興劇”と“凶劇”

俺達は今とても長い階段を登っている。

ハクア「あとどれくらいで…やりの柱だろうね。」

リース「わからねえ。でも戦う準備はしとけよ。」

ラック「もちろ…!!」

ラックの驚いた顔を見て俺は

バレット「おい！ラックどうした!？」

しかし俺が問いかけてもラックは反応しない。すると…

？「久しぶりだな。“興劇”の“喜劇”。ラック

けっこう探したぜ。」

ラック「どうも久しぶりだね。“凶劇”の“詭劇”のジット。会い

たくなかったよ。」

ジット「俺は会いたかったけどな。」

ジットと言われたそいつはツイッタージャ、ラックとそっくりだった。

ラック「“そっくり”ではなく“同じ”だ。」

ジット「そうか、元はといえ俺達は同じだったんだし。」

ラック「うるさい。何の用できた。」

ジットはニヤリと笑い

ジット「お前のスキル、“電子回路”（アルティキューブ）を回収

しにきた。」

ラック「……………」

ラックは何も言わない。するとリースは

リース「なんだ？その電子回路ってのは」

ラック「…物質を変換するスキル。これを使って僕は自分のタイプ

を換えた。」

なるほど、ラックのスキルはタイプを換えるスキルかと思ったが物

質を変換するスキルだったとは…。

ラック「ま、だとしても渡す気は一切ないよ。さっさと帰れ。」

ジット「そいつぁ、無理だ。だったらお前らの仲間を人質として捕つてもいいんだぜ？」

ニヤリと笑うジットを見てラックは言った

ラック「勝手にすれば？」

リースノハクアノバレットノジット「!？」

ラックは冷たい目で言う。

リース「お、おい……」

ハクア「そ、そんな……」

ラック「俺は例え人質をとられても屈しない。お前だろうとなかろうが。」

“俺”…ラックが一言はみんなにとっては普通と思うが、事情を知ってる俺は違う。

ラック「なめてんじゃねーぞ？“俺”。確かに怒りや恨みの感情はお前が受け持っているが…俺が怒りや恨みの感情がないという訳ではないんだよ。」

ラックは怒る事が少ない。それは最近付き合い初めたハクアが感じている事だ。

ラックは怒りの感情を外にださない。

ただしその感情をだしてしまった場合…

ジット「はっ。倒すつもりか。」

ラック「……………!!!」

ラックは声にならない声、人間の言葉で言う超音波を出す。…がそれはただの超音波ではない。…超音波を超えた超音波。

“弔怨波”（ブレイクソプラノ）!!!

ジット「……………!!!」

ジットは耐えられなくなって吹き飛ば

しかしラックの“弔怨波”は止まらない

ラック「……………!!!」

しかしこんな高音をずっと出せる訳ない。

ラック「…ハア…ハア…」

体力が沢山あつても息が続かないなら意味がない。

ラック「ふう…すう…！！」

ラックは息を吸う。そして…

ラック「…！！」

“弔怨波”を繰り出す。そしてあるうことが

エナジーボールを大量に

作り、上に投げた。ジットは何がしたいのかわからない顔でラックを見ている。

ラック「何ボーつとしてんだ！！“新緑の襲撃”（リースストーン？ストーン）！！」

これは“流星群”を草タイプで行ったものと思えばいい。

ジット「ぐつああっ！！」

ジットはどこかへ飛んでいった。

ラック「…ふう。」

ハクア「お疲れ。」

バレット「大丈夫か？」

ラック「ああ、それにあいつが持ってた

スキルも何個か回収できたし一石二マメパトだよ。」

リース「んじゃ帰ったら報告書な。」

ラック「へいへい。…つとそれより、やりの柱はその階段を登つたらいけるぞ。さっさとこつぜ。」

バレット「うん、そうだな！」

To be continued

第11話 “喜劇”と“詭劇”、“興劇”と“凶劇”（後書き）

ラック「次回人間界編（とかいいながら全然人間の接点がない物語）
が終わる！」

作者「括弧余計。」

第12話 元の世界に戻るけど…（前書き）

ラック「CHC13いりますか？」

作者「ん？何々？ってクロホルム！？」

ラック「ちよいと使ってくる。」

作者「おい！！ちよっ！まて〜………」

バレット「…俺って主人公かな。」

第12話 元の世界に戻るけど…

ラック「お、見えてきたぞ！」

ハクア「あ、あれがやりの柱…」

バレット「そこにパルキアがいるんだな」

リース「よし、じゃあいくぞ！」

俺達は階段を登りきった。すると…

？「誰だ？貴様達。」

声が出た方向にいたのは、パルキア。

ラック「“異空間移動装置”によってこっちの世界にきちまった。

元の世界に戻して欲しいんだが…」

パルキア「ふむ、なるほど。所でそのピカチュウ。……貴様をどこかで見た事があるような気がするんだが…。」

バレット「……きのせいだろ。」

パルキア「ふーん？まあいい。では戻るが

どこに戻るんだ？」

ラック「四正学園って所。」

パルキア「了解した。」

ウイル「いやーまさか成功するとは…」

ナムル「失敗前提だったんですか!？」

ウォル「おい、それより…この歪みはなんだ？」

するとその歪みから4人の影が…

ナムル「…あ、おかえり。」

ラック「いやーびつくりしたよ。」

リース「ところで今何時だ？」

ウイル「お前らが発した日から20日と5

分だぞ？」

ハクア「…と、」

リース「いう、」

ラック「ことは…」

バレット「ああ！俺のセリフ…！」

明日「敬遊祭”じゃん。

第12話 元の世界に戻るけど…（後書き）

ラック「今回短くない？」

作者「……………次回“敬遊祭”！長編！！」

第13話 敬遊祭で大混乱!?(前書き)

ラック「今日は長編なんだよね?」

作者「ん?ああそうだけど...」

ラック「ギヤラは?」

作者「は?」

ラック「ギヤラよこせよ。」

作者「.....」

第13話 敬遊祭で大混乱!?

今日はまちにまった敬遊祭だ。…だけど

バレット「なんで俺達がパトロール&mp・宣伝係なんだよ!」
ラック「まあまあいいじゃん。パトロールと偽って飯でも食べば。」
バレット「そうだな…。」

?「なつつつとらーん!」

突然の大声に俺は固まってしまった。

この声はもしかや……

ラック「あ、バレット…逃げる?」

バレット「うん。」

俺達は世界記録も超えるかもしれない速度でスタートダッシュ!

?「こらあー! ! !またんかあー! ! !」

謎の大声の人物は俺達を追いかける

ラック「うるせえ! 黙れ! ! !」

バレット「ついてくんな! ジジイ! !」

俺達を追いかける声の正体は俺達が小さい頃近所にすんでた偏屈ジ

ジイ…エンテイのフロウだ。

フロウ「誰がジジイじゃ! その前にまたんか! ! !」

ラック「なんでここにいんだ! ! !フロウ…

………さん! ! !」

ものすごい葛藤の末ラックはさん付けした

フロウ「お前達の学園祭見に来てやったというのに! ! !なんとという
急げ具合じゃ! !」

バレット「あ、俺達のためなら1・2のかき氷よろしく…。………

さっさといけよ! !」

フロウ「お前達に喝いれるまでいくか! !」

ラック「愛がこもった?」

フロウ「ああ! !」

バレット「…ただけに？」
ラックノバレット「割愛」

ラック「撒いたか？」

バレット「学園祭楽しみたいのに…」
ピンポンパンポン…

>ただいまラックとバレットを捕まえますとフロウさんから100万ポケが貰えます。皆さん頑張つて捕まえてくださいね！<

バレット「あのジジイイイイ！！」

ラック「学園祭がリアル鬼ごっこに！！」

生徒「あー！いたぞ！捕まえるー！！」

バレット「うわ！さっそく！！」

ラック「くらえや！眠り粉入り煙玉！（ピカチュウ族には効かないよう調査！）」

バレット「よし！いまの内に！！」

俺達は倉庫の裏に隠れる。

ラック「ここなら……………」

ラックのリーフブレード！

ゴースは倒れた！！

ラック「誰もいないな！」

バレット「ああ、そうだな…。ま、それよりどうする？」

ラック「…ハクアとナムルを仲間にするか…」

バレット「ハクアはわかるけどナムルはなんで？」

ラック「ナムル＝委員長＝真面目＝クラスのみんなを裏切らない…からだ！！」

バレット「あ、ああ。そうだね…。」

ラック「ハクアもナムルも教室だからいくぞ！バレずにいけるルートがある！！」

ハクア「それで僕達に協力を？」

ラック「うん。」

ナムル「人を売ることが大嫌いな僕に頼んだのはいい提案だよ！」

バレット「んじゃ二人は偵察係で。」

ラック「待ち合わせ場所は僕がみつけた……………つて所で！」

ナムル「そんなところあったんだ！」

ハクア「じゃあ……………金は君達持ちだけど食料調達と偵察は任せてよ

！」

バレット「まで！」

ラック「暗号決めようよ。」

バレット「あ、いうなー！」

ナムル「じゃあ……………打倒”つてきいたら“フロル”でいい？」

ラック「うん！じゃっそこで待つてる！」

ラック「ふああ〜暇だ〜」

俺とラックはいま秘密基地にいる。

もう一回目の食料調達がおわり偵察状況が終わりハクア達が出ていった所だ。

ハクア達の話によると、みんな死に物狂いで探していて一人で探しているもの、パーティーを組んで探しているものがあるようだ。

ドンドン！

？「開けて！！」

バレット「打倒？」

ハクア「フロルフロルフロルう！！」

なんだか様子がおかしい

ラック「どうしたんだ？」

ナムル「はあ…はあ…フロルが…僕達の事を協力者と見抜いて…タ
ーゲットに…」

バレット「じゃあどうするんだ!？」

ハクア「食料は沢山勝ったけどずっとここにいるって訳にはいかな
いし…」

するとラックが立ち上がる。

バレット「ラック？」

ラック「ちよいと偵察してくるわ。」

ハクア「ええ!?それは危ないよ!まさに

ガブリアスの大群に肉を入れるだよ!」

ラック「ジットと戦いの時スキル何個か回収したんだけどその中に

“ 隠蔽計画 ” (ミラー ジュパー フェクトプラン) があったから」

バレット「どんなスキル？」

ラック「カクレオンってポケにいるじゃん？」

あいつと似てるんだけど姿を見せたままだけど僕と認識できないス

キル。ま、ぶつちやけ初使用だけと…いつてくる!」

バレット「ちよっ!おい!!」

>ラック視点<

ラック (ふんふふーん 初めてのラック視点)

今僕は僕達を探しているポケ々が通りまくる廊下を歩いている。

ラック (おもしろいほどばれないな…ってあいつは!!)

僕の目の前にはこの事件の張本人、フロルがいる。

T o b e c o n t i n u e d

第13話 敬遊祭で大混乱!? (後書き)

ラック「微妙な所で終わったな!」

作者「ごめんごめん。次回に続く!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0420z/>

バレット学園日記！！

2011年12月11日23時50分発行